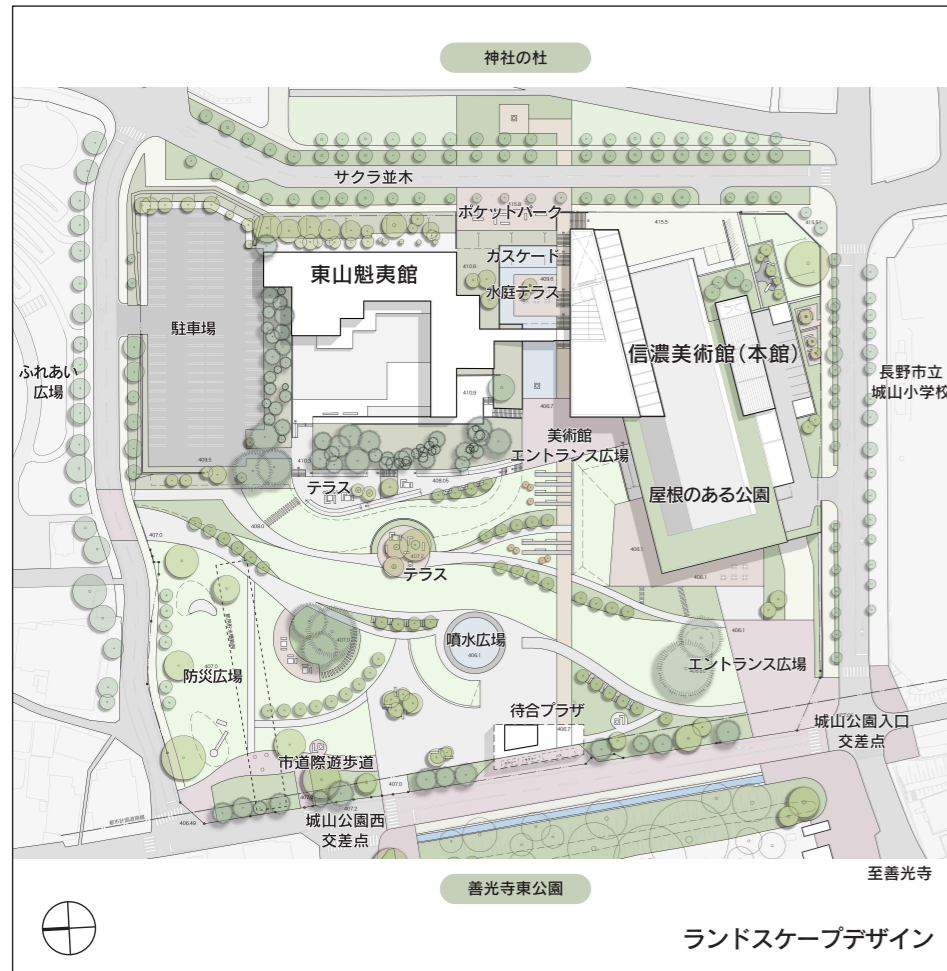


ランドスケープ(公園・外構)の基本方針

この事業は、信濃美術館(本館)の建て替え計画と長野市が行う城山公園噴水広場の再整備を、長野県と長野市が連携・協働して同時に実施します。県立の美術館と長野市の公園として古い歴史を持つ城山公園噴水広場を、ランドスケープ・ミュージアムのコンセプトのもとに一体的な空間としてデザインします。



※今後、実施設計を進めていく中でデザインや配置等の変更が生じることがあります

整備予定スケジュール

信濃美術館(本館)は、次回の善光寺御開帳が開催される2021年度の開館を目指します。また、東山魁夷館は、2019年度のリニューアルオープンを目指します。

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度 善光寺御開帳
信濃美術館(本館)	実施設計 解体工事	新築工事		OPEN 予定
東山魁夷館	改修工事		OPEN 予定	
城山公園(噴水広場)	実施設計	公園工事		OPEN 予定

※工事の進捗状況等によって、スケジュールが変動することがあります

問い合わせ先

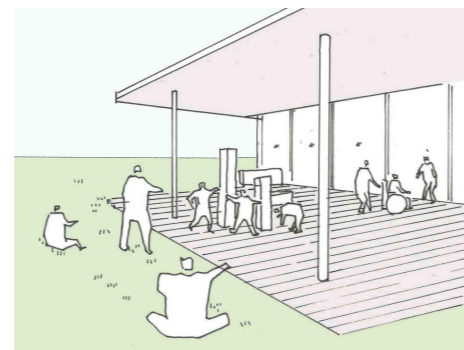
長野県 県民文化部 文化政策課 信濃美術館整備室

〒380-8570 長野市大字南長野字幅下 692-2 TEL: 026-235-7283
 信濃美術館整備に関する情報(長野県ホームページ Web site 信州) FAX: 026-235-7284
<http://www.pref.nagano.lg.jp/seibun/shinanobijitsukan.html> E-mail: shinbi@pref.nagano.lg.jp
 ホーム > 教育・子育て > 文化・芸術 > 文化・芸術 > 信濃美術館整備に関する情報

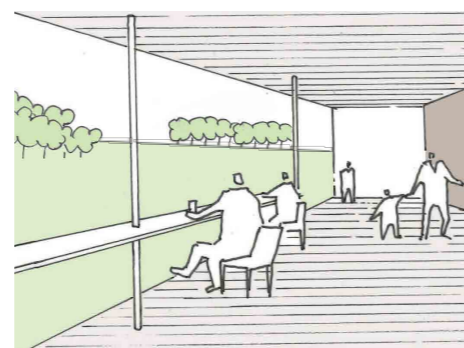
※城山公園噴水広場の整備に関しては、長野市公園緑地課(TEL:026-224-7284)にお問い合わせください。
 ※このリーフレットの内容は、平成 30 年(2018 年)2 月現在のものです。



美術館エントランスとつながる水庭テラスとカスケード



屋根のある公園とつながるアート広場と芝生の観客席



屋根の下で緑を眺め、ゆっくりくつろげる待合プラザ

MAP



信濃美術館

新しく生まれ変わる

〈ランドスケープ・ミュージアム〉



設計者：株式会社プランツアソシエイツ

信濃美術館整備事業の全体像がまとまりました

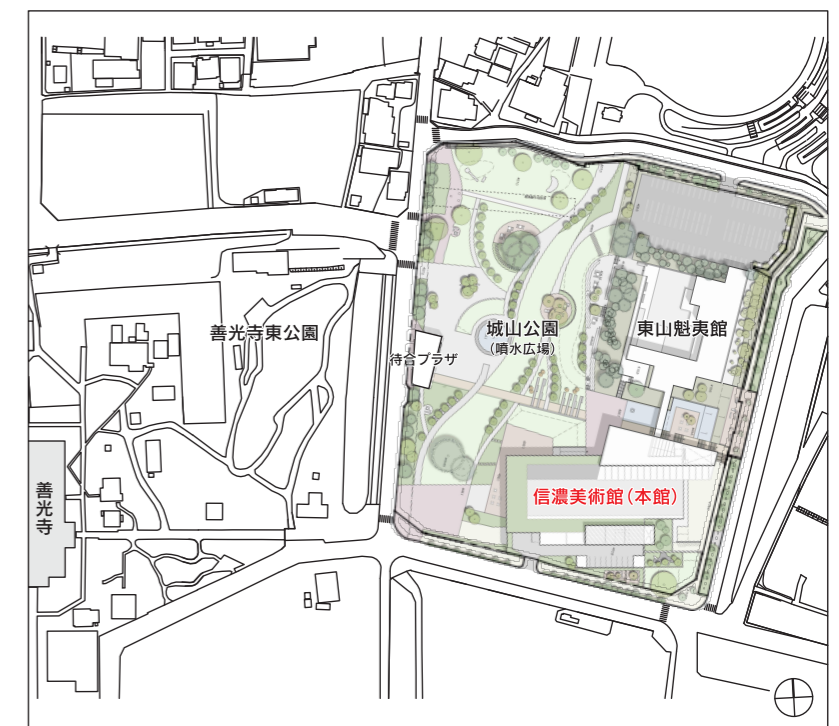
開館から 50 年を経過した信濃美術館(本館)は、建物の老朽化と機能や規模の点からも時代のニーズに応えることが困難になっています。

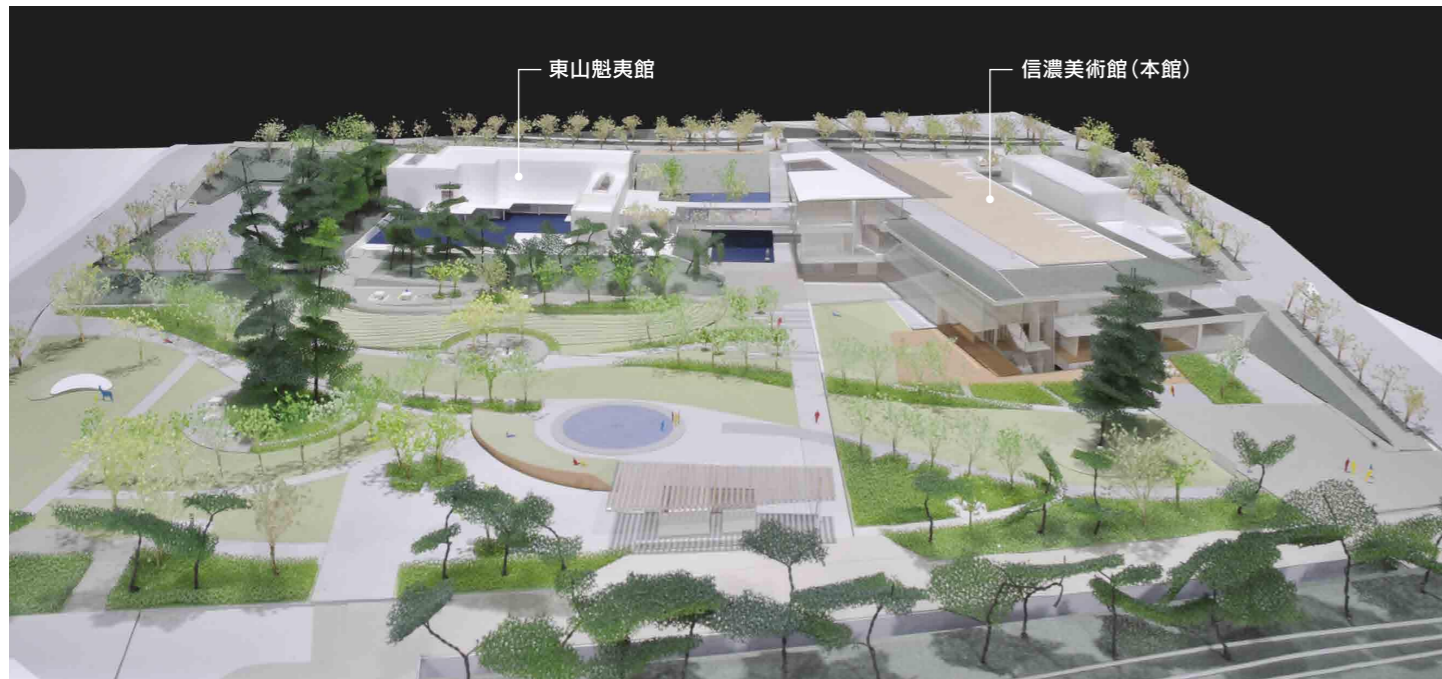
この事業は、県民に開かれた美術館としての運営を目指し、また、長野県の文化振興の拠点として文化的創造性と文化的魅力の向上に主眼を置いて、施設の全面的な再整備を行うものです。

この設計は、平成 28 年(2016 年)に策定した「信濃美術館整備基本構想」に掲げた下記 4 つのコンセプト

- ランドスケープ・ミュージアム
- 美術による学びの支援
- 信州の地域文化の多様性を活かす
- 世界水準の美術作品の展示と信州美術の紹介

を踏まえた上で、「県民リレー・ワークショップ」など県民の皆さまとの意見交換や信濃美術館整備委員会、文化庁等との協議を経て、まとめたものです。これからも皆さまとの意見交換を重ねながら、県民の誇りとなる美術館になるよう取組を進めていきます。





善光寺東公園側から見た敷地全体イメージ



東側道路・屋上広場から善光寺を望む [イメージ]

建築の構成

新しい信濃美術館（本館）は、時代の関心に応え、時代とともに歩む「進化・成長する美術館」として、国宝や重要文化財を含む様々な展示活動に対応できる「公開承認施設※」であることが求められる一方、県内の美術団体や県民の皆さまからは、様々な目的で自由に利用しながら、気軽に美術に親しめるスペースを望む声も多く寄せられました。性格の異なる2つの施設を一体的に成立させることが、今回の計画の最大の特長であり、それが建築計画の基本的な考え方の骨格になっています。

※重要文化財等の公開にふさわしい施設として文化庁長官が認定した施設。企画展における重要文化財等の公開手続きの簡素化や公開に伴う作品の応急修理費、輸送費などを文化庁に申請可能となり、美術館が重要文化財等の企画展を開催しやすくなります。

建築のコンセプト

ランドスケープ・ミュージアム

信州の山並みと一体化したランドスケープの構築を目指します。城山公園はもちろんのこと、隣接する善光寺東公園や神社の杜との連続性を意識しながら、ランドスケープと建築が融合した空間・環境を作り出します。

3つのレベル

施設が建築として風景の中に突出することなく、かつ建物の階層を敷地の高低差と一体的に結びつけ、3つの地面の高さに対応したフロア（床レベル）とすることで、隣接する東山魁夷館との連携と、各レベル（地面の高さ）からのスムーズなアプローチが可能な計画とします。

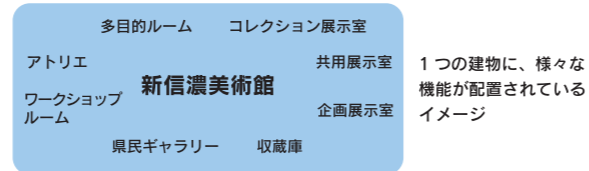
ユニバーサルデザイン

上記3つの床レベルの設定により、誰もが水平移動のみで道路から各階にアプローチできるという、この地形ならではの動線計画になっています。

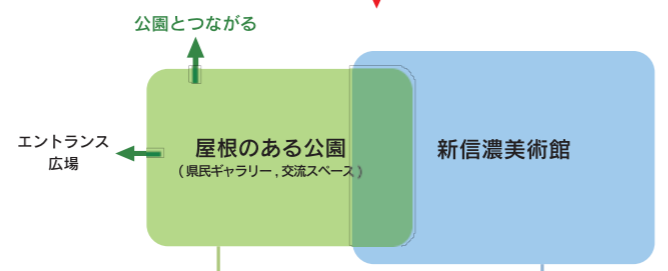
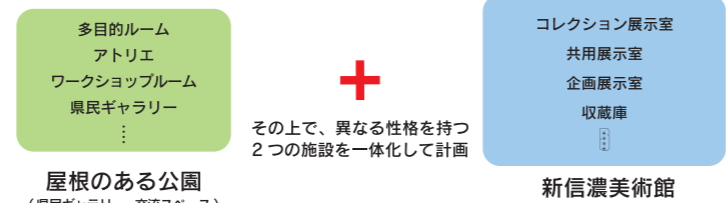
環境計画

地域の気候や風土に適した施設計画を目指し、建築計画と設備計画が一体となって環境負荷の低減を図ります。

プロポーザル時点の建築の考え方



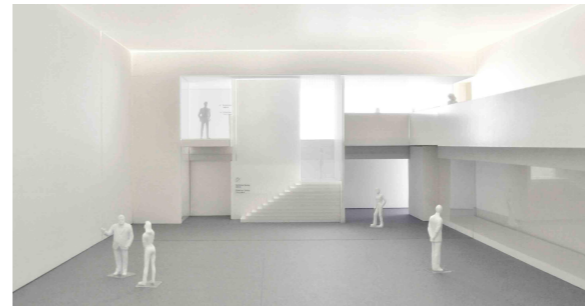
実は、使い方の異なる2つの施設と考えるのが正しいのでは？



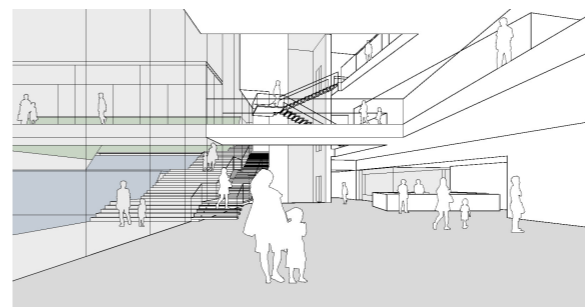
基本設計における建築の形

	多目的に自由に使える美術館	美術館本館（公開承認施設）
3F	屋上広場	屋上広場 ロビー
2F	カフェ	展示室 東山魁夷館との連絡ブリッジ
1F	交流スペース ・みんなの広場 ・ワークショップルーム ・オープンギャラリー等	エントランスホール ミュージアムショップ 展示室 収蔵庫、トラックヤード等
B1F	県民ギャラリー 多目的ルーム	収蔵庫等

2層に渡る展示室



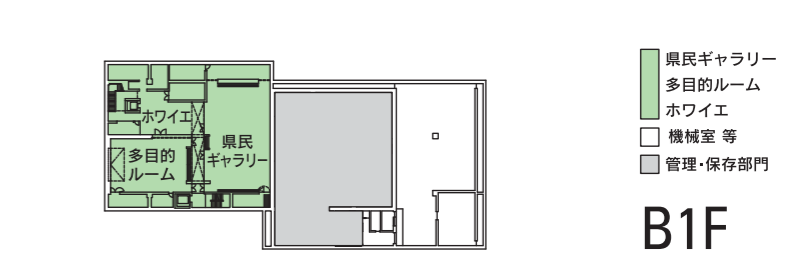
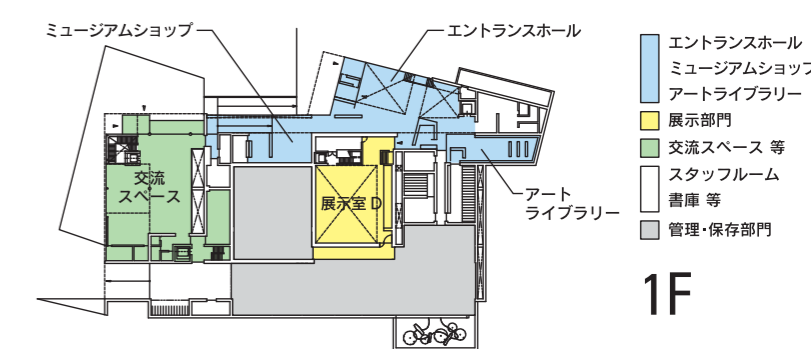
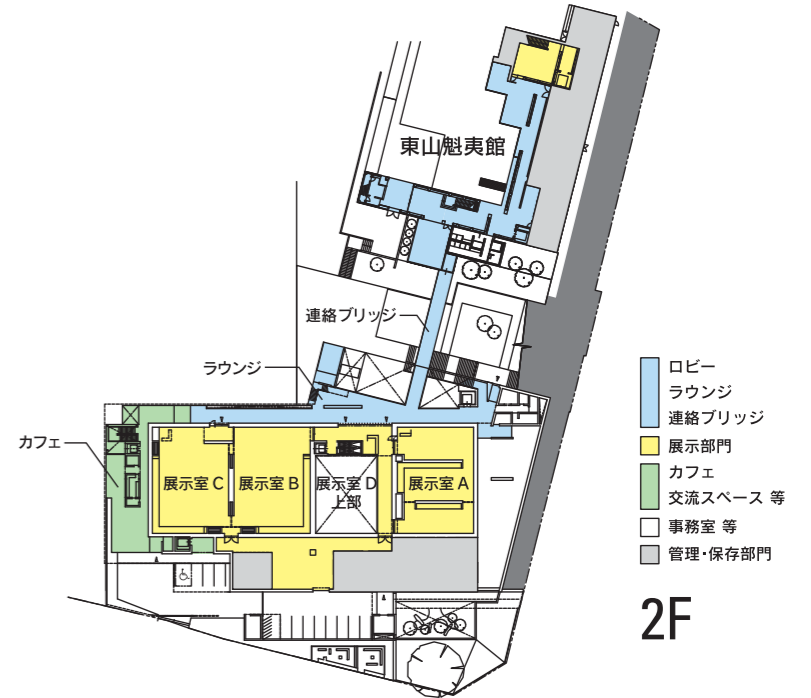
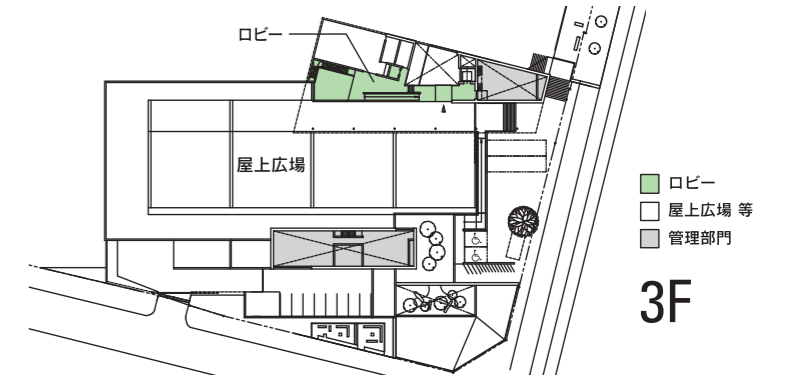
2層に渡る展示室 [イメージ]



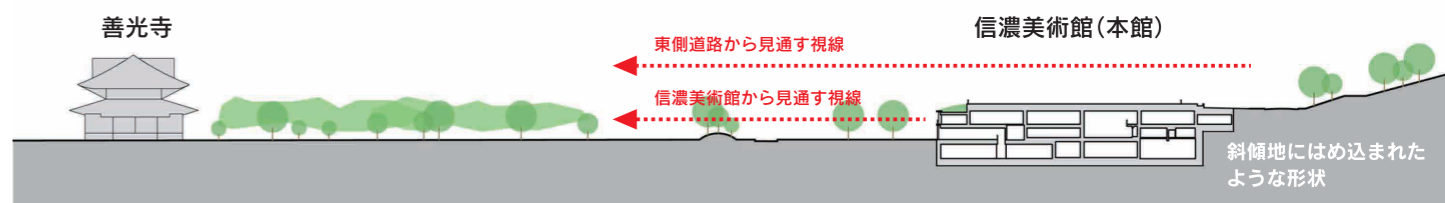
吹抜けのある1Fエントランスホール [イメージ]



屋根のある公園（交流スペース）[イメージ]



※今後、実施設計を進めていく中でデザインや配置等の変更が生じることがあります



善光寺から城山公園、信濃美術館にかけての断面イメージ